

## 1. おおむね 20 年後の将来の人口見通し【高社地域】

- 都市計画マスタープランは、おおむね 20 年後の将来を見据えた「都市計画に関する基本的な方針」を定める計画です。
- おおむね 20 年後の将来の人口見通しを把握するため、100m メッシュ別人口密度分布と将来の人口増減数の見通しを整理しました。

### ▼データの出典

2015 年	総務省統計局「平成 27 年国勢調査地域メッシュ統計」を基に作成
2040 年	国土交通省「国土数値情報[500m メッシュ別将来推計人口データ(H30 国政局推計)]」を基に作成 ※H30 国政局推計は、平成 27 年国勢調査を基準として、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成 30 年推計)」に準拠した推計データ

図 1-1：現状の 100m メッシュ別人口密度分布（平成 27 年国勢調査）

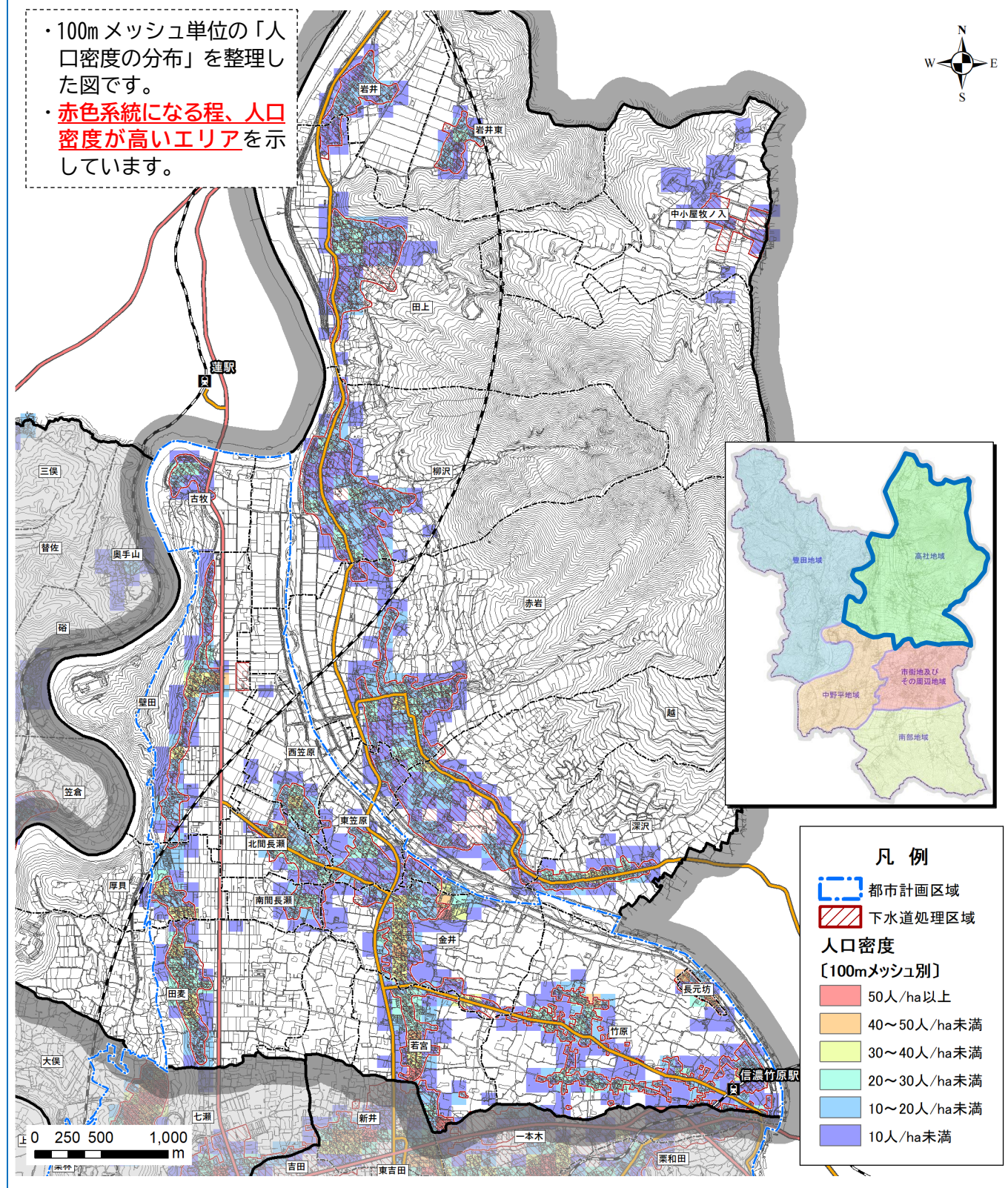
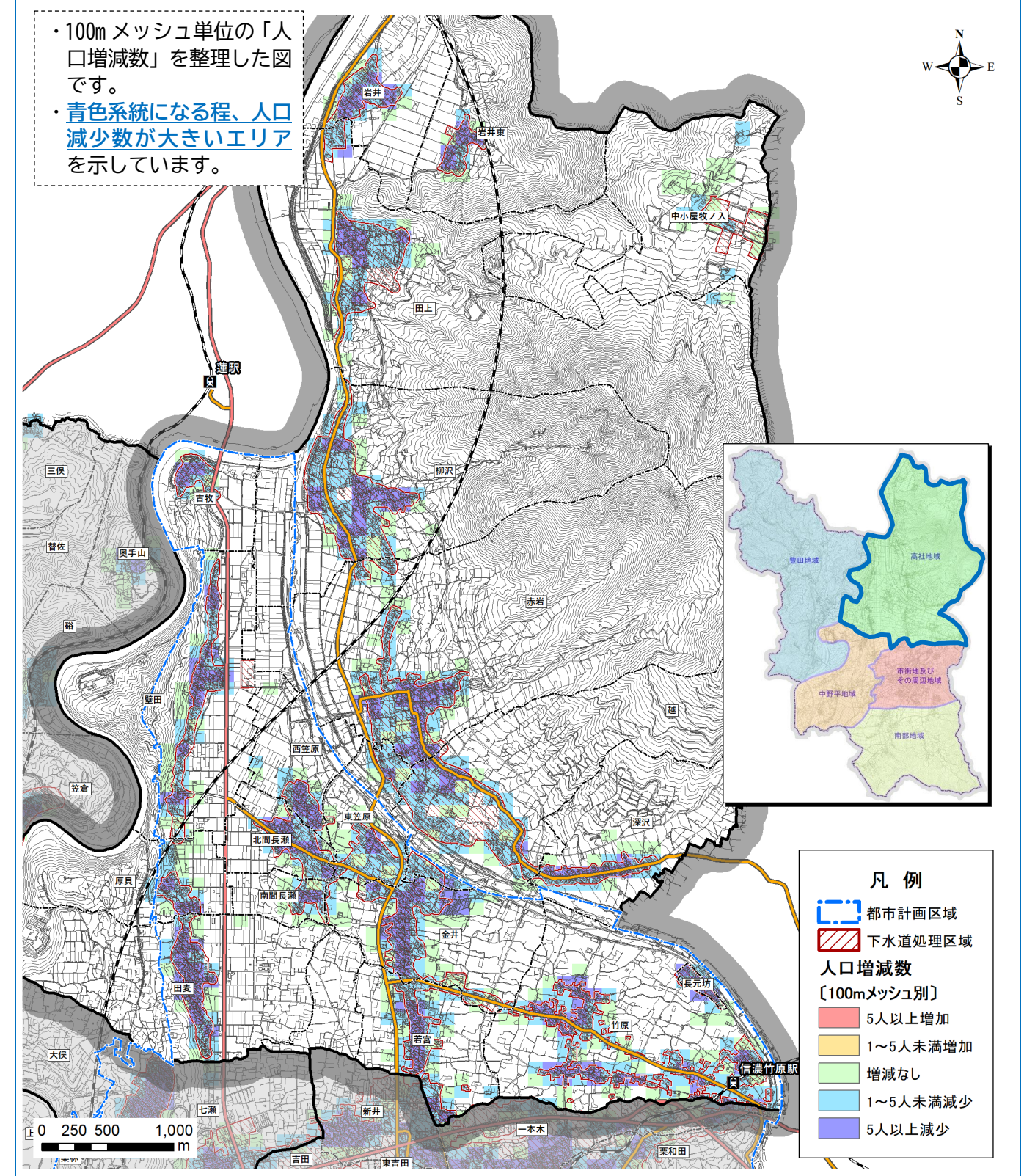


図 1-2：将来の人口増減数の見通し(社人研推計準拠)：2015年(平成27年)～2040年(令和22年)



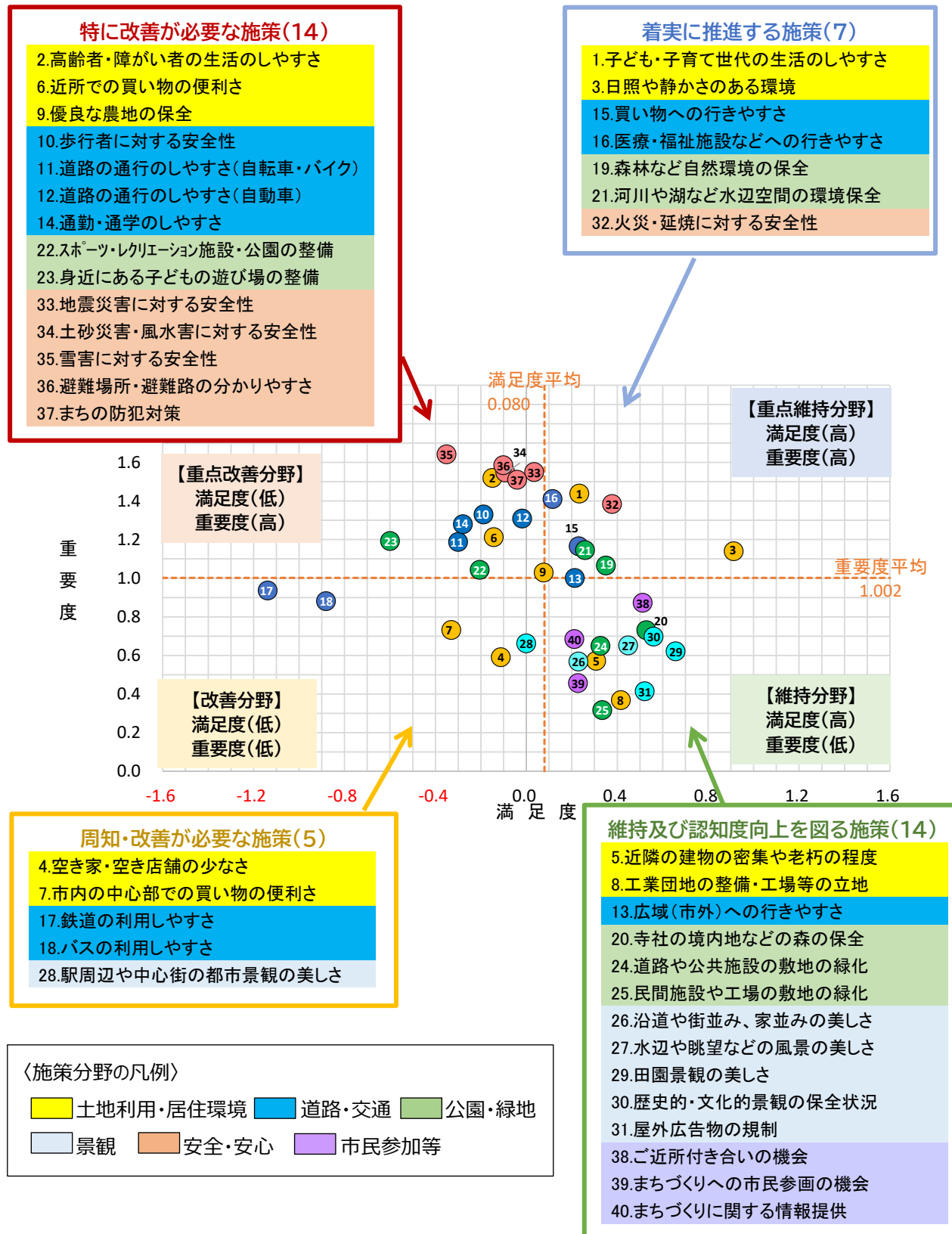
## 2. 中野市まちづくりに関するアンケート調査結果の概要

### 〈アンケート調査の概要〉

【アンケート期間】 令和3年9月 【アンケート対象者】 市内在住 16歳以上 3,000人  
 【アンケート回収状況】 回収数 1,247件（うち、高社地区回答数：251件）、回収率 41.6%

### 2-1 「住みやすさ」についての満足度と重要度

○高社地域では、子ども・子育て環境や、日照や静かさのある環境等が評価されています。一方で、高齢者・障がい者の生活しやすさや道路整備、安全・安心(=防災や防犯)等については改善が必要といえます。



### 2-2 中野市の将来像について

「地震や大雨、大雪、火災などのあらゆる災害に強いまち(59.7%)」が最も高く、以下、「買い物しやすい、活気があふれる中心市街地をもつまち(51.5%)」、「生活道路や公園などが充実した、住みやすいまち(36.2%)」の順となっています。なお、若い世代では「買い物しやすい、活気があふれる中心市街地をもつまち」の回答割合が高い傾向があります。

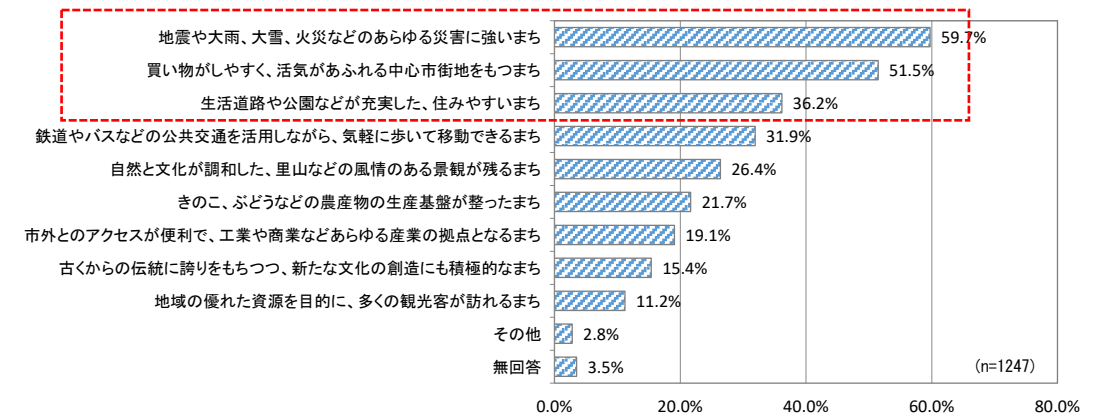


図 中野市の将来像 (単数回答)

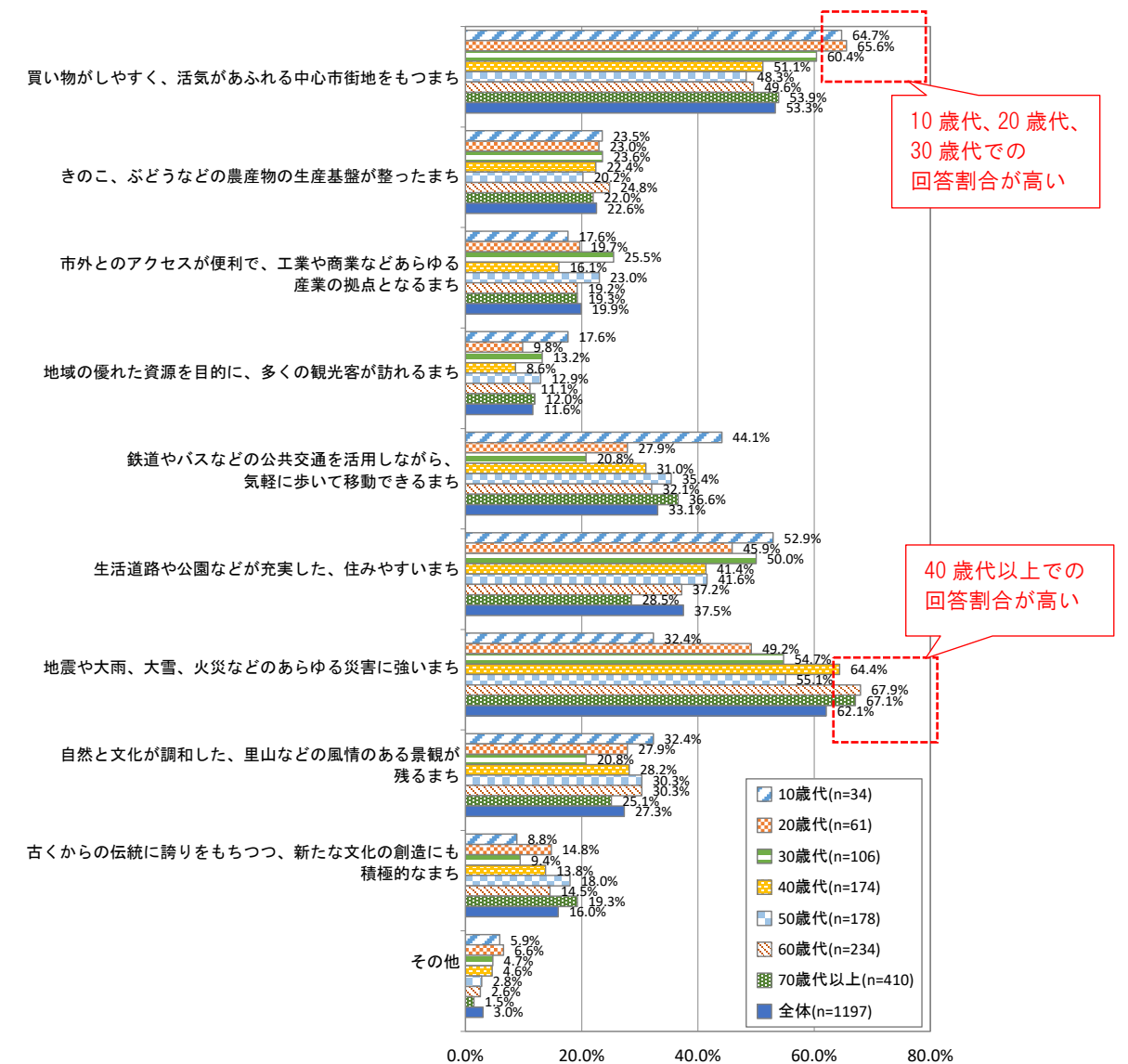


図 中野市の将来像 (年代別クロス)

### 2-3 定住意向

高社地域では「現在の居住地に住み続けたい」の回答割合は79.6%であり、市の全体（77.1%）を2.5ポイント上回っています。

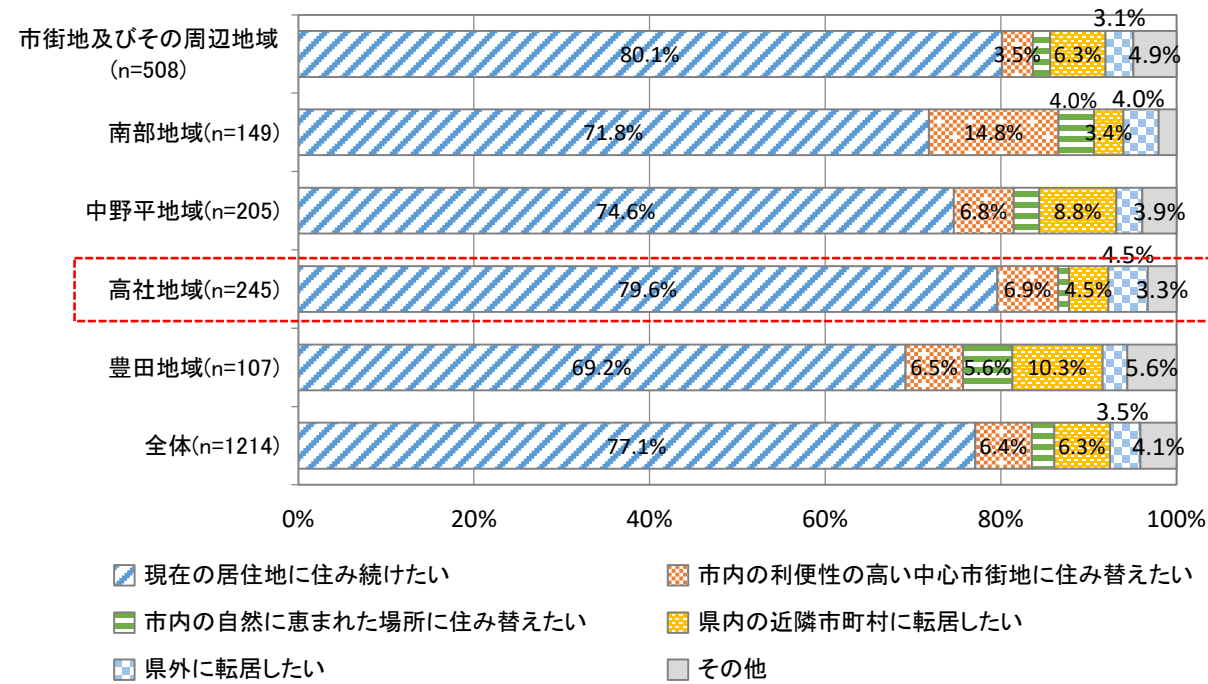


図 定住意向（地域クロス）

### 2-4 外出する際に最も利用する交通手段

全体としては、8割以上が自家用車となっています。高社地域では、「家族などによる送迎」の割合が全地域の中で最も高くなっています。また、「鉄道」の割合が最も低くなっています。

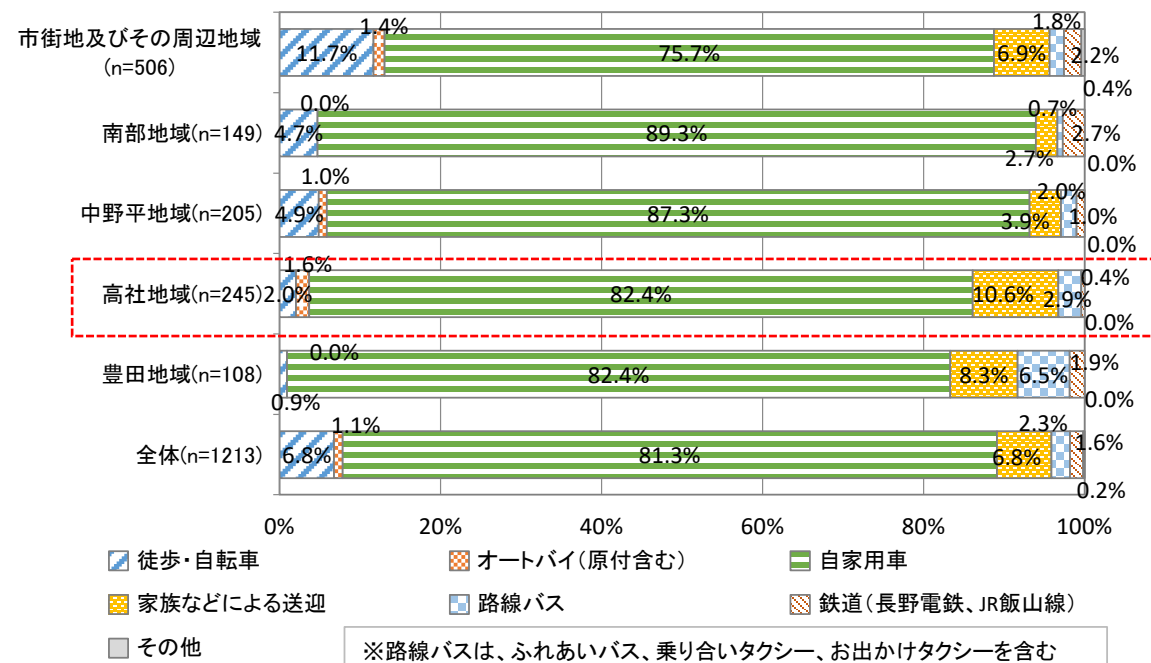


図 最も利用する交通手段（地域クロス）

### 2-5 中心市街地で維持・充実すべき施設

中心市街地(信州中野駅周辺)で維持・充実すべき施設として、「総合的な医療サービスを受けることができる病院(64.7%)」、「生鮮食品や日用品が揃う商業施設(60.1%)」の割合が特に高く、市民生活を支える基幹的な機能の適正な配置が求められています。

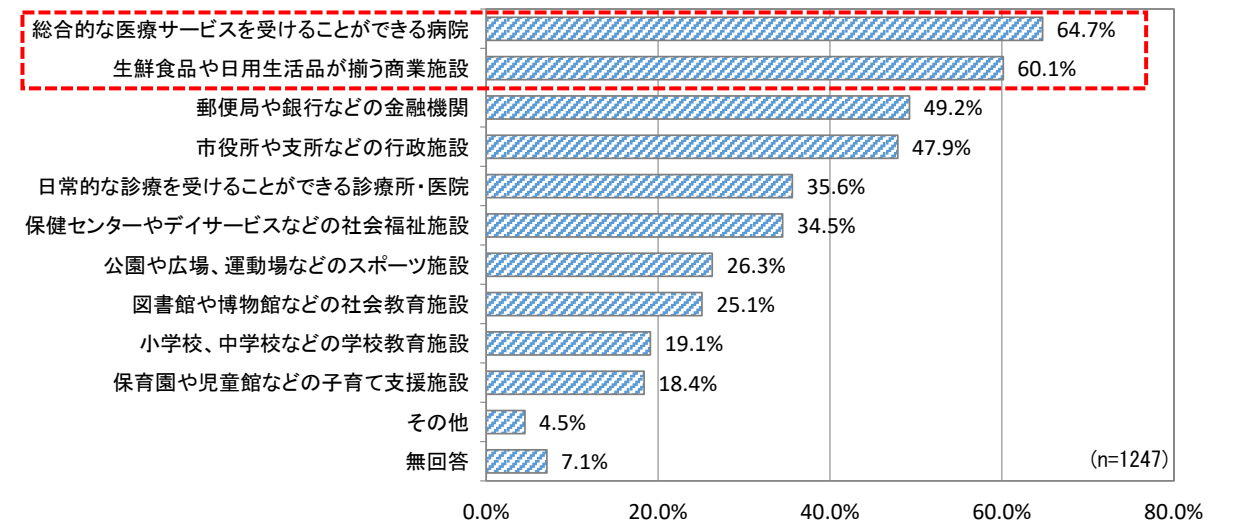


図 中心市街地で維持・充実すべき施設（5つまで回答）

### 2-6 国道292号の沿道及びその周辺地域で維持・充実すべきだと思ふ施設

国道292号の沿道及びその周辺地域で維持・充実すべき施設として、「生鮮食品や日用品が揃う商業施設(71.8%)」の割合が特に高く、次いで「公園や広場、運動場などのスポーツ施設(42.3%)」、「郵便局や銀行などの金融機関(40.3%)」の割合が高くなっており、自家用車での利便性が高い施設の立地が求められています。

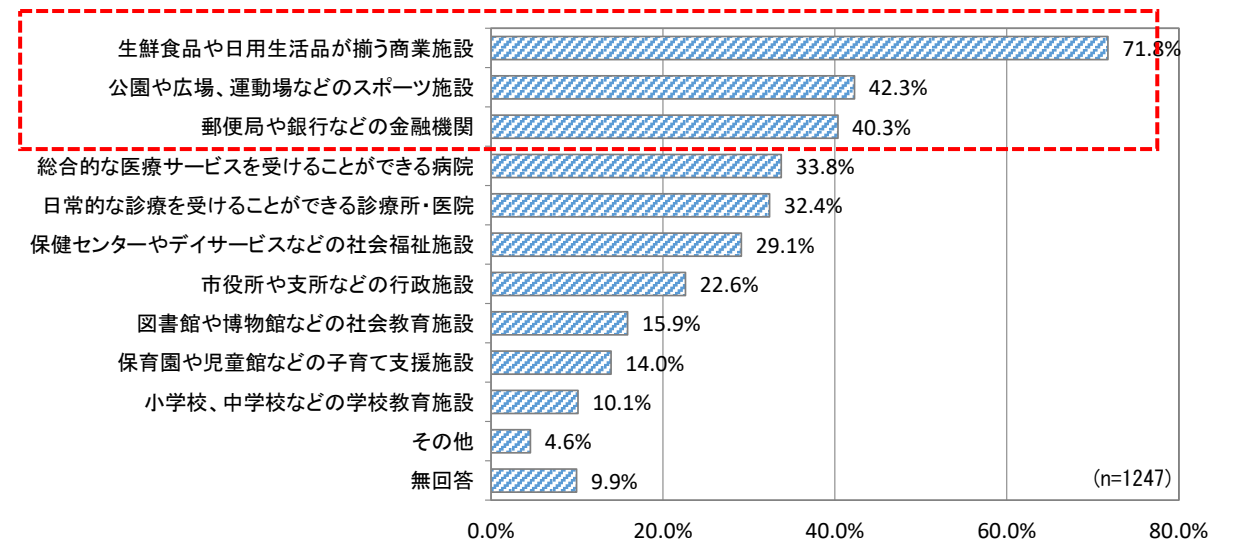


図 国道292号の沿道及びその周辺地域で維持・充実すべき施設（5つまで回答）

## 2-7 防災・減災対策として、重視すべき取り組み

### (1) ハザードマップの認知度

「ハザードマップを見て、自宅付近の災害危険性を確認している」の割合が最も高くなっています。

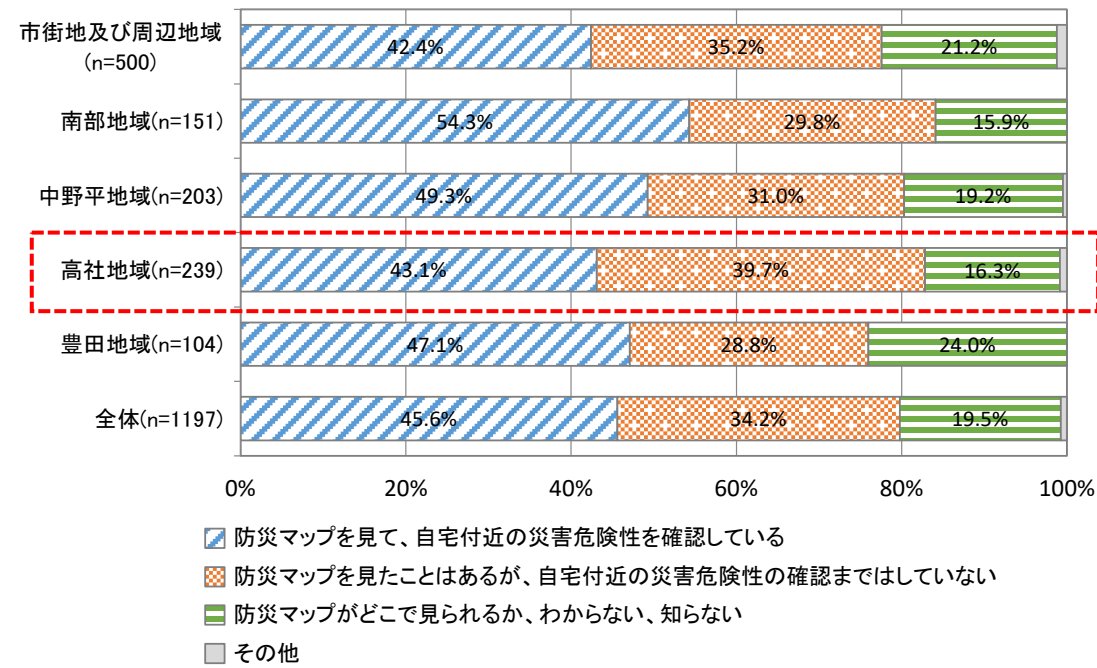


図 ハザードマップの認知度（単数回答）

### (2) ハード対策

ハード対策として、特に「主要河川や水路における河川改修などの氾濫対策(65.0%)」を重視している傾向があります。

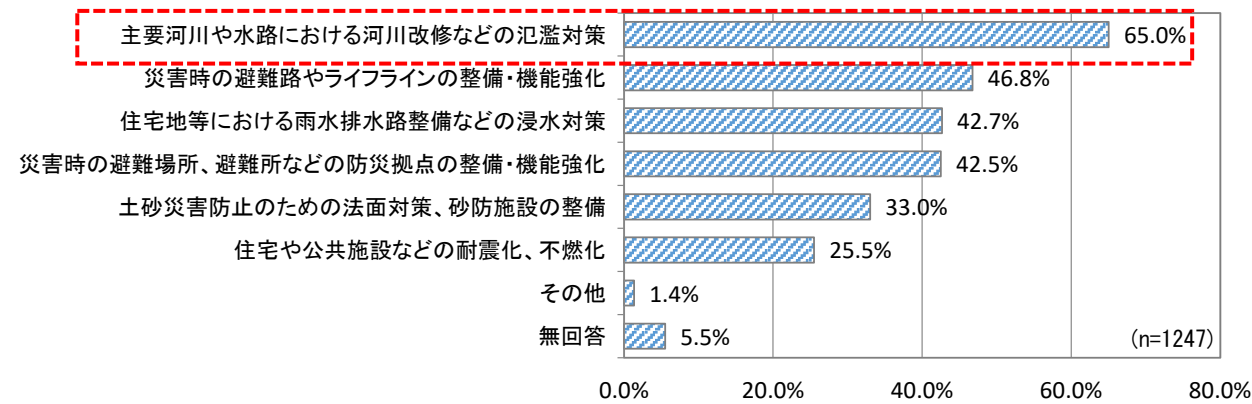


図 防災・減災に向けたハード対策（3つまで回答）

### (3) ソフト対策

ソフト対策として、特に「防災行政無線や緊急メールなどの情報伝達手段を活用した、迅速かつ正確な情報発信(82.3%)」、「自力で避難することが困難な人が速やかに避難できる、支え合いの仕組みづくり(75.4%)」を重視している傾向があります。

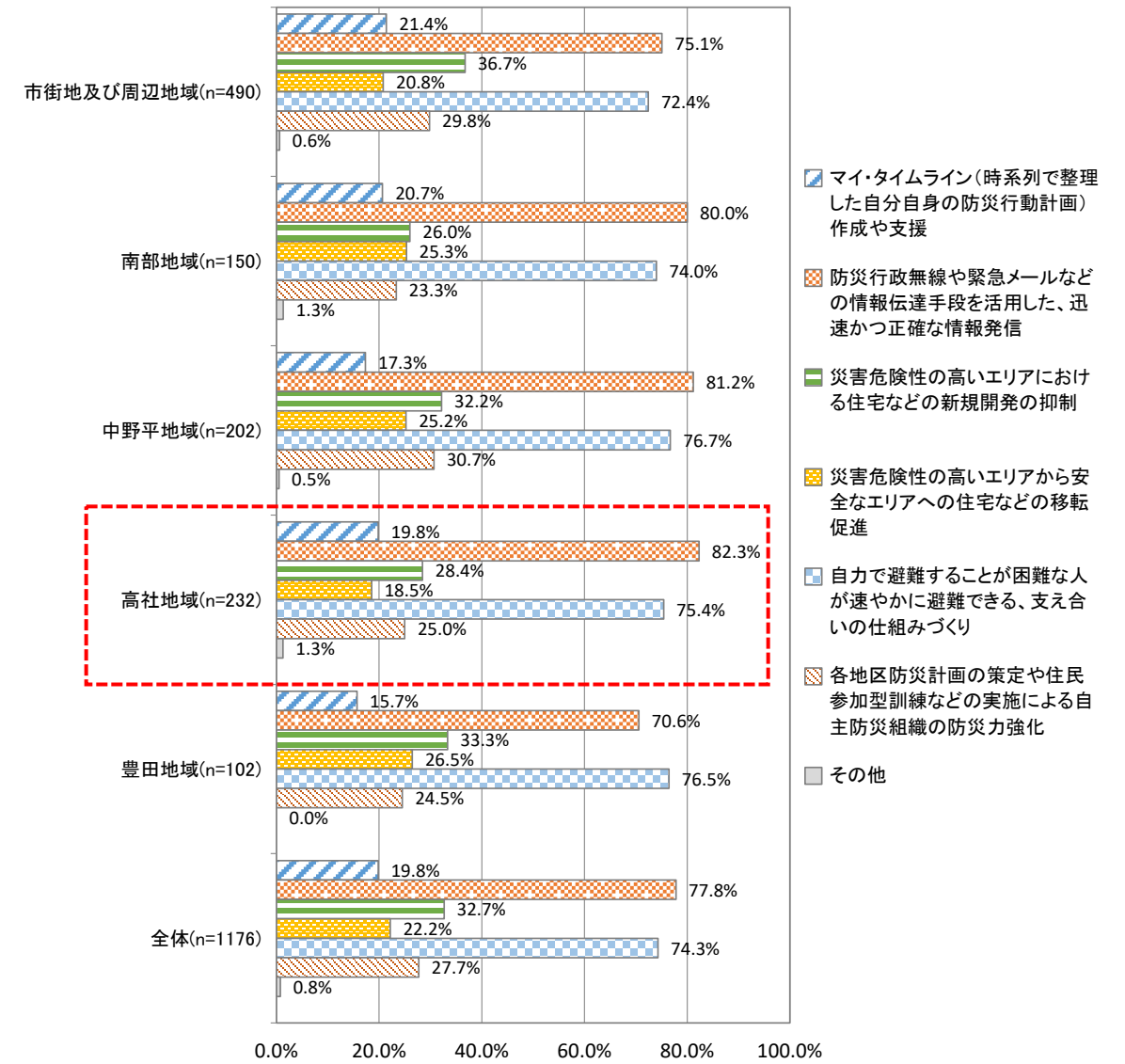


図 防災・減災に向けたソフト対策（3つまで回答）

### 3. 参考：現行計画における地域別構想の内容【高社地域】

- 参考として、現行の中野市都市計画マスタープラン(平成 21 年 3 月策定)における地域別構想で位置づけられた「4つの分野別の整備方針」及び「構想図」を整理しました。
- 今後、上位関連計画の方針と整合・調整を図りながら、整備方針の見直し案を作成する予定です。



現行計画	地域の目標	本市の象徴である高社山と千曲川・夜間瀬川下流域に広がるふるさとのまちづくり
	地域の基本方針	高社山麓や夜間瀬川流域に生息するチョウゲンボウやその繁殖地(十三崖)など自然・生態系の保全に努めます。果樹園や施設園芸を中心とした農地地帯の保全と農業振興の継続をめざします。

#### (1) 土地利用の方針

【現行計画】整備方針	
1	豊かな自然環境の保全と無秩序な開発の抑制を図るため、夜間瀬川以北の地区への都市計画区域の拡大を検討します。
2	農地の保全を図り、無秩序な開発を抑制します。

#### (2) 道路、交通体系の方針

【現行計画】整備方針	
1	中野地域と豊田地域をつなぐ県道豊田中野線の整備を促進します。
2	県道夜間瀬赤岩線の整備を促進します。
3	県道中野飯山線の狭隘区間の解消等、整備を促進します。
4	除雪等、冬期間の交通安全対策に努めます。
5	公共交通の見直し検討を行い、利用促進、運行の維持に努めます。

#### (3) 環境保全・景観形成の方針

【現行計画】整備方針	
1	高社山及び十三崖のチョウゲンボウ繁殖地などの自然保護に努めます。
2	まとまりある農地の保全に努めます。
3	長野県景観育成重点地域に属し、沿道の適正な土地利用を推進し景観の保全を図ります。
4	柳沢遺跡など貴重な遺跡の調査・保全に努めます。

#### (4) 都市防災の方針

【現行計画】整備方針	
1	夜間瀬川、千曲川流域の氾濫を防ぐため、堤防の整備を促進します。
2	急傾斜地の崩落防止など治山・治水対策を促進します。
3	建築物の耐震化及び不燃化を促進し、集落内における住宅密集地での災害の防止に努めます。

